

第14期 第2回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成30年12月7日（金）15時00分 ～ 17時00分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎4階 第2会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員（会長）、南部敏委員（副会長）、長谷川誠一委員、上田光徳委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員、民家幸世委員

欠席：中嶋聖委員

【教育委員会（事務局）】

中村隆弘次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報 告
 - (1) 第1回校区審議会審議概要について
 - (2) 校区審議に関連する活動報告について
 - (3) 気高地域の検討状況について
- 5 議 事
 - (1) 校区審議のスケジュールについて
 - (2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
 - (3) 本市の中長期的な校区のあり方について
 - (4) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第2回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。なお、本日は、中嶋委員よりご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

前回の第1回校区審議会では、校区審議の今後の進め方についてご審議いただきました。

その中で、中長期的な校区のあり方の議論と、前審議会からの申し送り事項の解決に向けた議論について、スケジュールをイメージしながら進めていくということがありました。

本日は、「審議スケジュール」、「千代川以西エリアの学校のあり方」、「本市の中長期的な校区のあり方」についてご審議いただきたいと思います。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

みなさん、こんにちは。本日は報告事項が3点、議事が3点ございますが、なるべく議事に時間を割きながら検討していきたいと思っております。とにかく、児童生徒数が減少している中で、新しい学校のあり方を探っていくとともに、鳥取市全体としての学校のあり方・配置を考えていかないとい

けない時代に入ってきました。これまでの学校数を維持できるのは、あまり長くはないと思います。〇〇委員が都市計画関係で鳥取市の将来像ということを検討されていますので、まちづくり・地域づくりといったことも併せて今後の学校のあり方を検討していきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、日程3の議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順により、上田委員、吉澤委員、よろしく申し上げます。次回、印鑑をお持ち下さい。

まず、報告事項ですが、事務局より3点まとめてご説明ください。

事務局

[資料説明]

会長

それでは、ご質問等をお受けしたいと思います。校区審議に関連する取組について、気高や、江山地区でも毎月のように会議を開いていただいています。今、江山地区での活動についてご報告いただけるようなことがありましたら簡単で結構ですので、〇〇委員にお願いしたいと思います。

委員

江山地区義務教育学校設立準備委員会では、来週、美穂・大和・神戸の3地区において住民に向けて活動の進捗報告を行うこととしています。今、委員会で決まっているのは、平成32年に新しい義務教育学校としてスタートするのですが、現在の校舎を大幅に改修するというので、仮設校舎をどこに建てるのかというようなことを議論しておりまして、地域や保護者からは細かい要望がたくさん挙がってくるのですが、私も保護者の立場であり、地域の立場であるものですから、色々な立場を考えながら調整をしているところではありますが、最後は子どもたちにとって一番どれがいいのか優先に考えましょうということ、色々な考え方があって不満はありながらも一定方向に進んでいるという形になっております。そのような形で進んでおりますが、さらに細かなことを今後議論していくことになります。

会長

ありがとうございました。

また、西郷小学校区でも色々な取組が始まっております。現在の児童数が36名ですが、平成36年度には今の出生状況からすると25名ということで、検討に入っているということです。

これからも、様々な小中学校で課題が出てくるとことも想定されますので、前回いただいた学校ごとの児童数の推移の表を時々ご覧いただきたいと思います。

全体としては、よろしいでしょうか。

気高地域においては、4つの小学校区で考える会が立ちあがっていますが、その4小学校区の考える会から3名ずつ集まって連絡協議会ができそうだという報告がありました。既に、逢坂小校区からは、気高町内の小学校と統合したいという要望書が出ており、昨年、第13期の校区審議会で視察をさせていただきました。逢坂小、瑞穂小、宝木小では複式学級があります。浜村小は少し大きいですが、4校揃ったの連絡協議会ができれば、色々な話が出てくるのではないかと思います。

事務局の説明も含めて質問等はよろしいでしょうか。ないようでしたら、議事に進みたいと思います。それでは、議事1「校区審議のスケジュールについて」、事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

では、はじめに「校区審議のスケジュールについて」ということでご審議いただきたいと思います。

私たちの任期が平成32年の10月までということになっております。その間に、様々な課題も繰り越しの部分がございまして、新たに取り組む事項もございまして。一つは、中長期的な小中学校の適正配置に関する答申、これについてはこの後ご検討いただきます。それから千代川以西エリア、これはずっと前からの課題であり、13期でもなかなか結論は出なかったのですが、この14期ではもう少し前に進めていきたいと思っております。気高中学校エリアについては、3つの小学校と1つの小学校とでは条件が違います。3つの小学校では複式学級が導入されており、逢坂小学校区では統合を望むという要望書が出ております。一方で浜村小学校は少し大きくて、まだそのような動きは少ないわけですが、やはり気高地域全体でどうするかということも4つの小学校区との連絡協議会でもご検討いただきますが、校区審議会としてもいつまでも待つというわけではなく、場合によってはこの校区審議会としての方針を考えざるを得ない時期が来ると思っております。そういったことから、地域とのすり合わせをうまくできればと考えております。河原中学校エリア、東郷小、明治小、佐治小、中心市街地エリアと、それぞれ課題がありますので、こういった学校についても、今後2年間である程度方針が出せるということが必要になってくると思っておりますので、この2年間ですることを進めていきたいと思っております。一応、会議は2か月に1回程度のペースなのですが、第13期では1月半に1回程度のペースで、視察等を含めかなりの回数を重ねて進めてまいりました。場合によっては、少し回数が多くなることもありますが、スケジュール等を調整していただきながらお願いしたいと思っております。

このような、スケジュールでよろしいでしょうか。現時点ということですので、これから変更になることもあるかと思っておりますがいかがでしょうか。それでは、このようなスケジュールをベースに進めさせていただきたいと思っております。

それでは、議事2「千代川以西エリアの学校のあり方について」ですが、最初に事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

13期の申し送り事項に、「現在の児童生徒の保護者、将来子どもを学校に通わせることになる未就学児の保護者をはじめ、地域の意向を把握することが重要である。」とあります。先ほどの審議スケジュールでも確認していただきましたが、地域や保護者からの意見の収集ということがありました。それに関連して、千代水自治会が独自に調査をされているということでご説明していただきました。ただ、千代川以西エリアについて、自治会が全てのエリアをカバーできているわけではないので、なかなかこの地域の方の意向をどのように把握するかというのは難しい部分があります。小学校区と自治会、町内会等のエリアを示したものが資料の4ページです。青色の部分が城北小学校の区域、その南にいきますと斜めに線路がありまして、線路のすぐ南には高草中学校、その少し西に世紀小学校、さらに南には大正小学校があります。一部ですが、線路をまたがって世紀小学校や大正小学校に通学している児童がいます。千代川より西側の青色の城北小学校区の中でも、今回の自治会の調査に入っていない町もございまして。全てをカバーできているわけではありません。このあたりがなかなか難しいところです。この地図と、参考資料の19ページを併せてご確認いただきたいと思います。参考資料の赤線で囲まれているところが町内会のエリアです。そうすると、この他のエリアにも住宅があって、城北小学校に通学している世帯があります。例えば、南城北や緑ヶ丘などは千代水自治会とは別の自治会に属して千代水自治会の調査からは外れています。このあたりも含めまして、今回の千代水自治会の資料も参考にしながらどのように調査を進めていくか、どのように考えていくかということになります。もし、〇〇委員の方で補足があればお願いします。

委員

アンケートは私が作成し、集計は自治会で行っていただきました。最初に、先ほどご紹介いただいた参考資料についてですが、「安長扇町」が「商栄町」の北と西に2つに分かれています。北の方は「商栄町」で、「安長扇町」は西の四角形の部分だけになるかと思っております。商栄町は9号バイパスまで

だと思えます。また、「安長」について、千代川東側の八千代橋を渡ってすぐの所ですが、自治会に加入されている世帯が数世帯あります。（※改めて担当部署に確認したところ、参考資料の地図は平成28年に公民館を通じた調査をもとに作成したものとのことです。本年度も同様の調査を行っており、12月に最新の実態を把握される予定ですので、確認をして次回の審議会で報告させていただきます。）

アンケートについてですが、結果をご覧になればわかると思えますが、9号バイパスの北に位置する晩稲や南隈は、すぐ北に賀露小学校があるので、そのまま賀露小学校・湖東中学校に通学したいという方が90%以上でありました。緑ヶ丘3丁目も近くに世紀小学校・高草中学校があるので、現状のままという回答が高かったかと思えます。城北小学校に通学しているエリアの方は、65%程度現状のままがいいけども、難しければ新設学校が良いということだったと思えます。安長や安長団地は、世紀小学校に通学する方が概ね近いと思うのですが、商栄町は城北小学校と世紀小学校までの距離が同じか、世紀小学校の方が遠いということになるかと思えます。そのあたりも、アンケート結果に表れているのではないかと個人的に思っています。

会長

ありがとうございました。南城北は、城北小学校に通学しているのですが、千代水自治会とは別に城北地区の自治会に入っておられるということですか。千代川以西エリアの全体を考えると、一つの自治会でまとまっていない、一つの公民館でまとまっていない、あるいは自治会に入っていない所もあるようで、なかなかひとまとめにしにくい部分もあります。ただ、このままでいいということではなく、色々な意見が出てきていますが、長年なかなか結論が出ておりません。先ほどご説明いただきましたが、こういった形の自治会アンケートというのは初めてだったと思えますし、自治会に入っていない部分の意見をどうするかということを含め、今後城北小学校の児童数が増加していくということで、現状ではプレハブを作ったとしてもかなり長期間になる可能性もありますので、そのあたりを含めてご検討いただけたらと思えます。

何らかの形で地域の意向をもう少し詳しく調査するのか、調査するのであればその地域をどうするか、対象者をどうするか、調査方法、回収方法など検討する必要があると思えます。これまで行ったことのないことですので、なかなか難しい部分がありますが、どこかで地域の意向を収集することが必要だと思えます。

副会長

自治会がアンケートを取っておられるわけですが、千代水地区の自治会加入率というのは、私が記憶しているところでは44%程度だったと思えます。したがって、半分以上の方が対象になっていないということですので、この学校問題を検討することにおいては、対象学校に関わる地域全部にアンケートを実施すべきだと思えます。それから、幼稚園、小学校、中学校の保護者さんへのアンケートが必要だと思えます。やはり、自分の子どもが学校に通学しているか通学していないかで大きく違いが出てくると思えます。学校があるかないかで、地域が発展するか衰退するかということにもつながっていきます。千代水地区は、商業地として伸びていく地域ではありますが、個人住宅という視点で見るとこれから増えるかという、先ほどの資料にもありましたが、5年後くらいにピークを迎えて徐々に減ってくるのが予想されます。美保小学校や美保南小学校にも同じことが言えると思えます。まずは十分に足り得るアンケートを取って、そこに住んでおられる皆さんの気持ちを十分に把握することが大事ではないかと思えます。

会長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

委員

補足ですが、千代水地区には、保育園や幼稚園もない状態です。千代水保育園というのがありますが、場所は江津にあります。江津は昔、千代水地区でしたので、地区に保育園があった状態でしたが、今の千代水地区には保育園がないので、保育園に未就学児の親へのアンケートを取ろうとしても、なかなか難しいのではないかと思えます。

会長

〇〇委員がおっしゃられるのは、保育園で渡すとなると難しいということですね。

委員

小学生や中学生がいらっしゃる家庭でしたら、小学校経由で配布や回収がしやすいと思うのですが、そうでない場合は個別に配布するということになりまして、若い世代のご家庭ですとアパート住まいなども多いので、アンケートを配ってもどれだけ回収できるかという心配があります。

会長

実際にアンケートをしようと思うと様々な課題があると思います。ただ、自治会の加入率が44%ということであれば、全戸配布というような何かの方法で、児童生徒がいるいないにかかわらず、全体的な意見収集をどこかで行う必要があるかと思います。現在児童生徒がおられる家庭、これから児童生徒になられる子どもがいる家庭、これから子どもが生まれる可能性のある家庭など、色々な家庭があると思います。

第13期でも、何らかの形で調査をするということについて色々と意見がありました。本日、すぐに結論は出ないとは思いますが、皆さんからご意見を伺いながら地域全体の意見収集ができる方法を考えていきたいと思っています。

それでは、〇〇委員より順番にお願いします。

委員

市の方にお伺いしたいのですが、地域の声を把握するといった時に教育行政以外においてアンケートは頻繁に取られているものでしょうか。

事務局

私も具体的には存じ上げませんが、逆に自分の所にそういったアンケートが届いたというようなことも委員の皆さんにおかれましてはおそらくあまりないのではないかと思います。国から下りてきた調査などは別として、市が住民の意向を把握するために直接アンケートを取るといったことはあまり多くしていないと思っております。

委員

そうであれば、参考になるようなアンケートのフォーマットやアンケートを実施することの重みとか、そういった前例も何もない所から私たちがこれに関わるということは、大変な挑戦だと思います。現実可能性を考えて、今このようにしたらいいということは申し上げられませんが、アンケートを取る覚悟を私たちが持てるかどうかということがあると思います。全戸配布にしてもそうでない方法だとしてもそれは同じです。

そういったことから、他の自治体における住民の方から意向を把握するための手法なりを勉強してみる必要があると思います。もし、教育行政の場でそういった事例があれば、参考にしたいと思います。アンケートは、例えば助詞の使い方一つにしても、受け取り方は変わってきますし、非常にセンシティブなものです。住民の意向を把握することは大事なことなのですが、何も材料がないところからアンケートの質問文等を考えたりするというのは現実的に難しいと思います。

会長

実は、アンケートをすると、その結果に縛られるということがあります。それが、校区審議会としても、教育委員会としてもいいのかということです。非常にその部分は難しく、例えば50%を超える回収率の中で、イエスかノーかということを出てくると結局のところ選挙のようになってしまいます。いわゆる住民投票のような形になってしまい、アンケートの設問自体もなかなか難しいです。一方で、行政としては、学校はこうあるべきだということも当然あるわけですので、その辺との兼ね合い

をどうするかということがありますが、必ずしも住民の意向どおりにいかないということもあるかと思
います。これは、この後の議事の中長期的な校区のあり方にも関わってくるかと思
います。住民の要望
だけだと、おそらく学校を残してほしい、今のままにしてほしいというような考え方が普通だと思
いますが、10年先20年先のことを考えてそれでいいのかということが難しい部分があります。確かに、
学校のことを問うアンケートを取られた例があるのか、あれば文言等をどうされたのかということを含
めて、どうするかということを決定的にしていきたいと思
います。これまで地域において、教育を考える会
などが自らの地域においてアンケートをされるということはあったかと思
いますが、この校区審議会が
直接アンケートを実施するというのは、それなりの責任があると思
います。元々は、安全の問題と、城
北小の児童数増加にどう対応するかという二つの課題があり、その課題をどう乗り切るかというこ
とがあります。今の件は、もう一度調べていただきたいと思
います。

今の段階で、こうすべきという結論ではなく、こうした方がいいのではないかという意見や感想、疑
問でも結構ですので、お伺いできたらと思
います。

委員

今、自治会の町内会ごとのアンケートということで、ご報告をいただいたのですが、私の地域でのこ
とを踏まえて、感想を述べたいと思
います。家庭に子どもがいるのかいないのかによって、それが一つ
になって結果として出てくると、どうなのかという部分が実はあります。江山校区でアンケートを採
ったときに、保護者の思いとしては、保護者なのかどうなのか、子どもがいるかないのか、という点も
聞いてほしい、それに応じて分けて集計してほしい、ということで色々と要望を出したのですが、な
かなか全てをアンケートに取り入れられたということではありませんでした。自治会のアンケート結果
が、保護者を含めて同じような意見かという、そうではないということが中にはあるのではないかと
思
います。アンケートも取り方次第では、先ほどもありましたが、どちらにも変わるような取り方がで
けるといったことがあるのではないかと思
いました。そういうことを考えると、子どものことを考えると、現在の保護者、これから子どもを学校に通わせる保護者の意見をいかに吸い上げるのかという部分
を、PTAの立場からは考えていかないといけないのかなと感じています。

委員

校区審議会が、子どもの安心安全を一番に考えるので校区を分けますと答申をするときに、校区審議
会主導で今後保護者となる住民の意向をつかんで答申を出すのと、つかまな
いで答申を出すのでは、少し違
うと思
います。自治会主導のアンケートでは、現状のま
まがいいという回答が多いですが、もしか
すると校区審議会主導のアンケートでも同じような結果になるかもしれ
ません。それでも、例えばですが、「校区審議会としては、『安心安全のために八千代橋を渡るとい
うのはいかがなものかと思
います。』と言
えるくらい覚悟を持って答申を出しています。お気持ちはわかりますが、それ以上に私たちは安心安全の立場でこのような校区がいいと答申を
しました。」という
ような論調になるかと思
います。「八千代橋の西側は北中に通うことができないのか。」とか、「城北小学校以外のところに行きなさい
という
ような話があるのだけど本当なのか。」あるいは、「北中に通いたいと思
っている保護者がほと
んどですよ。」という保護者もお
られます。しかし、そのような声を一人一人に聞いたわけではないので、それがどの程度かということを知るべきかと思
います。その方法をどうするかというの
は、私は次の問題だと思
います。アンケートを作成する、回収率の問題というの
は、次の問題であると思
います。自治会の方がご苦勞をなされたアンケートは大きな参考になると思
いますが、これは校区審議会の主
導のアンケートではあり
ません。校区審議会が答申を出すのであれば、それなりの意向を聞く、聞けるア
ンケートのようなものは必要ではないかと思
います。

委員

アンケートの目的ですが、わかっているようで実はぶれていることもあると思
うので、時間軸も、対
象者の属性についても明確にしてからやらないと、一度結論が出てしま
うとそれを無視できないとい
う状況にもなってくると思
います。アパートなのか持ち家なのか問わず今住んでおられる方の時間軸は、
ここ数年以内の小学校がどこにあるべきかを知りたいのではないかと理
解しています。今住んでいる方
が、ここ数年で学校が変わってしまうということに関する意見を吸い上げようとして
いるということだ

と思います。ただ、それと同時に中長期的な話をすると少しぶれてくると思います。住民は、中長期的に住む場所を選ぶので、アンケートはなじまないと思います。ただし、持ち家、土地を持っておられる方は、長期でもそこに住もうと思っておられますので、関係してきます。時間軸も非常に重要で、こういった対象者の意見を聞こうとしているのかを明確にして、アンケートを実施すべきだと思います。そこには、説明もわかりやすく書いて、尋ねるといことが重要だと思います。

私はどちらかというと、中長期的な方に意識がいくのですが、都市計画が都市計画法のもとに決まっております、この辺は用途地域に全域が指定されています。ここは工業地域や準工業地域が多いところですので、基本的には、住居ではなくそうではない使い方をしてほしいというエリアであります。具体的には、工業地域には学校はつくれません。ただ、住居地域もないわけではありません。

そういったことも含めて、数年先の話をしているのか、20年先の話をしているのか意識していきたいなと思ったところです。

委員

千代水地区には保育園が川を渡った江津にあるというふうに伺いましたが、安長や商栄町の方はどちらの保育園等に通っておられるのでしょうか。

委員

地元という感覚でいけば、城北小校区に通う子は「城北保育園」、賀露小校区に通う子は「賀露保育園」、世紀小校区に通う子は「さとに保育園」ということになるかと思います。ただ、「城北保育園」はかなり人気が高く、城北地区の方でも通えない状況のようです。したがって、幼稚園や別の地域の保育園に通うというような状況になっているかと思います。

委員

子どもの成長を考えたときに、保育園から小学校に上がるときに、保護者として、次はどこ小学校に入るのかというイメージを持たれて説明会等に参加されると思います。千代水地区には保育園がないということで、現実問題として保育園が作れるかどうかということはありませんが、自治会アンケートの結果では回答者の世代がなかなかつかみづらいところがあります。一つの参考にはなりますが、先を見据えた中長期的な見方でいけば、もう少し、これからの子育て世代の方に絞った考え方がデータなどでわかれば、校区審議会として方向性を決めていきやすいのではないかと思います。

学校と自治会の関わり方という点で、田舎の方ですと地域の学校という捉え方がありますが、これだけ世紀や城北に分かれているような地域がまたがって複雑な所では、地域としての学校と、自治会としての関わり方も少し複雑で、そのあたりも鳥取市として考えたときに、もう少しすっきりわかりやすくしてもいいのではないかと思います。ただ、そういった中でも、安長については千代川以西と以東にまたがっているのも、校区を自治会という括りでわけようかという点においてもなかなか難しいのではないかと感じているところです。

委員

自治会アンケートを拝見させていただいて、その中でも子どもがおられる家庭の割合がそれぞれ何パーセントかということがわかりにくい部分があったのですが、アンケート結果を全体的に見ると、様々なご意見があるようですが現状維持の考え方である住民が多いように感じました。これは、校区審議会としても予想された結果だったように思います。

地域の要望を考えて校区再編をするというのはなかなか難しいことであると思います。校区審議会でも千代川以西エリアについては何年も議論しています。その過程で自治会の要望もあり、色々と議論してきました。この自治会アンケートは、現状とこれからどうあるべきかを書かれて実施されていますが、回答された方が、果たしてどれくらい現状や今後の状況について理解されているのだろうかというのが気になることです。

そういった点も含めて、校区審議会としての調査方法はこうだということについて、まだ自分の考えはまとまっていません。全戸配布という意見もありましたが、ただ、アンケート調査で校区審議会が全て動いてしまうということではなく、一つの参考として審議会としては考えていけないといけない部分

があると思います。教育を考える会が立ちあげられていない状況ということも踏まえて、調査方法を考えていく必要があるかと思っています。

委員

自治会アンケートを拝見して、現状維持がいいという意見が多く、現在学校に通われている家庭や、これまで通われた家庭、これから通われる家庭にとっては、多少負担はあるけれど八千代橋を渡って通学するということに対して、私たちが考えるほど危険だとは思っていないのではないかと感じました。

議事3の資料ですが、城北小学校も含め市内の学校の児童数も22年後にはかなり減るという推測の資料を見ていて、新しい学校を建設するという事はないと思います。また、城北小学校の向こう6年間の児童数の推移を見ても、この6年間に過ぎればあとは下降気味になるのではないかと思います。ただ、マンションが建てば、また数は変わってくると思いますが、中長期的に考えれば、どの学校も児童数は減ってくるのではないかと思います。現状の課題に対応するために校区を分けたとしても、中長期的には児童数が減って、また校区を考える必要が出てくるのではないかと感想を持ちました。

委員

千代川以西エリアの課題として、児童数が増えて教室が足りなくなるということと、通学路の安全がどうなのかということがありますが、当事者である保護者の方がそのことについてどのくらい問題意識を持って自治会アンケートに回答されておられるのだろうかということを感じました。保護者としては、今まで事故等もなく大丈夫だったので、これからも大丈夫だろうというように考えておられるのかもしれない。

そして、児童数がいずれにしても減っていくという中で、現状を乗り切ればいいのかということですが、それはそうではないように思っています。

また、今まで何十年もかかって校区割りについて議論されていても、現状維持のままずっと来ているということ踏まえると、敢えてきれいに校区分けをする必要があるのかということも感じております。

会長

皆さんからご意見をいただきました。ありがとうございます。本日、結論を出すということではありません。問題点をもう少し浮き彫りにする必要があります。

安全面を考慮して橋を渡らない方がいいのではないかとということで、校区審議会で長年議論をしていますが、結論が出せていません。

学校としては、教室のやりくりをしても場合によっては仮設校舎を建てないといけない状況にもなり得るということになっています。

保護者の中では、中学校のことが頭にあって、そこに強い思いがあると、現状維持がいいという気持ちが恐らくあるのだと思います。そのあたりのことも考えると、簡単には校区を変更できないということがあります。現在の校区のことを考えて土地を買ったという方も現実にはいらっしやいますので、その辺になると難しいということでもあります。

それから、実際に校区再編をすることも、これまでの例を見ても、現在通っている児童のことも考慮して経過措置等も取られますので、完全に実施されるまでに10年間くらい時間がかかります。また、その10年の間に状況がだいぶ変わってくることもあります。そのあたりも含めてどこかで結論を出していきたいと考えています。

本日は、皆さんのご意見を伺ったところで終わりたいと思います。他の自治体で、校区再編の関係でアンケートをした例があるかどうか調べていただき、例があればどのような内容のアンケートをしていたか紹介いただきたいと思います。もし、アンケートをするのであれば、どのように行うのかももう少し議論をしていきたいと思います。千代水自治会のアンケートに全ての千代川以西エリアの住民が参加されているわけではなく、先ほどご紹介いただきましたが加入率が44%ということですので、回収率をかけるとさらに低くなりますので、仮に校区審議会として調査するともう少し全戸の意見が必要になるかと思っています。その中では、保育園・幼稚園の子を持つ方、小学校の子を持つ方、中学校の子を持つ方、子が卒業された方など、そういった区切りで調査結果を分析できる仕組みを考えてかなければならないと思います。そのあたりでどうするかということについて議論を進めたいと思いますし、様々な資料を

もう少し集めていきたいと考えています。この審議会で結論を出すとする、どこかで審議会としての情報を持って結論を出したいと思います。引き続きご議論をよろしくお願い致します。

〇〇委員さんにお尋ねしますが、城北小学校は仮設校舎を建てないという状況にあるのでしょうか。

委員

実は、資料にある住民基本台帳をもとに作成された数字とは現実とは異なってくるのがあって、推計では629人ですが、来年度入学する児童を含めて来年度児童数は、現時点で610人台の予定です。したがって、来年度は、空き教室が1つあるという状況になりそうです。ただ、34年度推計のように700人台とかになると、当然空き教室はなくなってまいります。校区審議会の委員を何年間かさせていただいて、住民基本台帳から算出された推計表を毎年見っていますが、城北小学校の児童数については、推計数より実際の数はいくらか下がるという傾向にあります。

会長

〇〇委員さんのお話からすると、すぐに仮設校舎が必要な状況にはないということでした。そのあたりを含めて、校区を変更とするというのは大変な大きなことですので、これから審議していきたいと考えています。

続いて、議事3の「本市の中長期的な校区のあり方について」に入りたいと思います。

前回、過去20年で子どもの数が、70%に減ってきているという話をいたしました。これから先の20年間もこのペースで70%に減っていくとしますと、 0.7×0.7 で、20年前からこれから20年後の40年間で約半分に減ってくるということになります。そういった予測を持ちながら考えていかないといけないと思います。

ただ、その先の40年先、50年先となるとあまりにも先すぎる話ですので、20年先くらいを考えるのがいいのではないかと思います。実際に、この校区審議会で、新しい小学校、中学校、義務教育学校にするとしても、江山もそうですが、本日視察した福部未来学園にしても、色々と地区で話し合いをされて地区でまとまって平成26年6月に要望を出されています。そこから校区審議会の答申、教育委員会の方針決定を受けて準備をされて、平成28年に開校され、施設設備もようやく整いつつありますので、これからさらに成果を上げていかれると思います。このようなことを考えると建物を含めて5～6年くらい学校づくりにかかってくると思います。そう考えると、10年では短いような気がしますので、20年くらい先を考えた方がよいのではないかと思います。

そのあたりのご意見を伺いたいのですが、まずは資料の説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

この表の見方も含めて何かご質問はありませんでしょうか。およそ20年後の予測値を出していただいているのですが、例えば、将来これだけの児童数になるので、市内にある小学校をこれぐらいに絞らないといけないだろうという予測図を出したいと思っています。また、教育委員会としても、鳥取市全域の中長期的な学校区のあり方について審議していただきたいということで諮問されています。その中長期的というのをいつにするのかという課題になりますが、先ほど私がお話させていただいたようなことを踏まえ、およそ20年先を考えていくということでもよろしいでしょうか。

そうしましたら、このように具体的な小中学校の児童生徒数の予測は出ているのですが、小中学校をどのようなエリアで分けて考えていくか、これからの都市計画の考え方をもとに数を検討していくか、あるいは別の形で工夫していくかということを含めて、全国的にもいくつか事例があると思いますので、事務局に探していただいて、そのようなものを参考にしながら中長期的に、およそ20年後を予測しながら学校の配置を提言できるように進めていきたいと思っています。そのような進め方でよろしいでしょうか。

それでは、事務局の方で参考となる資料を次回までに探していただきたいと思っています。議事としては、

以上で終了したいと思います。

次回の日程調整をさせていただきたいと思います。2月にお願いしたいと思います。

それでは、2月15日金曜日午後2時からということで、よろしく願いいたします。

事務局

慎重なご審議ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、第14期第2回鳥取市校区審議会を終了いたします。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 上 田 光 徳

署名委員 吉 澤 春 樹